

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社 あゆみ		
事業所名	グループホーム あゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	平成23年1月26日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouinyou-c.tukusiri-shimane.or.jp/kaigosin/infomationPublic.do?ICD=3291500035&SCD
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかに一人ひとりがその人「らしく」いられる場所をつくっていきます。今後、地域の中でのその方を見つめ、「どうありたいのか」という思いを大切に家族、地域の方等とゆったり、一緒に、楽しみながら関わっていきます。
 ※季節ごとのイベントの開催や音楽を通して交流を図っています。
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。
 ※全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごしていただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着に重点を置いて地域行事への参加、見学、隣接する温泉施設での合同のイベントに参加したり事業所の行事に招き交流している。季節を通じて利用者が馴染みの場所へ出かけられるように支援し、職員は家族の意向や要望、利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。退居後の利用者が病院で亡くなった時、家まで送ってあげるなど、人や地域との関係を大事にした支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして明確な理念を掲げている。管理者は理念について職員に問うたり、会議での話し合い、日頃のケアや言葉掛けが理念に沿ったものかどうか職員と話し合っている。	地域密着を基本理念としている。利用者、家族の要望に沿えるサービスを提供するため日常のケアを振り返り、全職員で確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りなど地域の行事に参加したり、町内の保育所と積極的に交流を図っている。地域の有志によるグループとの交流を行っている。	年々、地域との関係が深まっている。隣接の温泉施設の元気サロンの利用者、保育園児などの来訪や地域行事、祭りへの参加などを通し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は実践報告会で施設の介護の取り組みについて発表する機会があったが、本年度は出来ていない為、次年度は発信する機会を設け、継続して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や日常生活の様子、行事等の報告を行っているが意見や問題提起の場としての活用がされていない。	遠方の家族も役員に入っているため日程を調整しながら2ヶ月に1回開催している。課題として会議の場がまだ十分な機能を果たせていないと自覚している。	今後の取り組みの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のケア会議で、情報交換をしている。入居の際の連携や困難ケース等あれば、必要時に相談させて頂いている。	日頃から相談、情報交換を行い、良い関係が出来ている。より多くの職員が研修できるように連携しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。居室に鍵はなく、日中玄関の鍵はかけていない。夜間は、安全の為に施錠することになっている。	基本として身体拘束はしない。見守りの支援を徹底し、職員は拘束することなく対応している。地域の協力関係も有り見守ってもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアについては、入居者の全身状態を確認し、対応についても気になる点があれば、その都度注意するようにしている。また、研修会等に参加し虐待についての勉強を重ね、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者があり、活用しているが制度について理解している職員は一部であり、学ぶ機会を十分に設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安が解消出来る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを実施し、意見・要望・苦情を聞き全体で共有、必要な対応をとるようして日常に活かせるよう職員で話し合いを行なっている。年3回ホーム便りを発行し、日常の様子を、お知らせしている。	全家族の面会がある。家族会の行事にも積極的に参加をしている。アンケート結果で、介護についての勉強会を開いてほしいとの要望があり、検討中である。	気軽に問題提起ができる場を工夫され今後の改善につなげていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や主任会議で運営に関する報告を受け、それに対して意見や提案を聞く機会を設け反映している。	意見箱を設置している。会議において常に職員の意見を聞く機会を作り、又、日頃から職員間、上司を交え言い易い職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	対応可能となるように、日程や勤務の調整は行っている。また、給与表・資格手当等を明確にし各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修案内を見て必要と思える研修は参加している。また、2ヶ月に1回の職員会で研修内容を発表する機会を設け、職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の担当者会、圏域の小規模・グループホームケア連絡会に出席し、情報交換や勉強会に参加している。他事業所見学や交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までのところで、家族・本人から話を聞ける機会を作っている。また、関わってこられたケアマネ等から意見を聞く様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があれば家族の意見に耳を傾けて、信頼関係を築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わってこられたケアマネから、なぜこのサービスを選ぶ事になったかを聞き、その上で面接の機会を持ち本人や家族にとって他サービスが良いと思われる場合にはその点も含め相談をすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の何気ない1つの出来事でも共にする事で学ばせて頂く事も多いが、つい職員主体になってしまう事もあるので、職員間で連携を取りながら共にする事で、信頼関係を築く努力はしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりに担当職員を置き、家族と連絡を取り合うようにし、一緒に支えていけるよう心懸けている。家族会を企画し、利用者の方と一緒に過ごせる時間を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで生活されていた地域へドライブや祭りの見物に行き、馴染みのある方と話をしたり、風景を見られて「懐かしい」「良かった」という声を聞く事が出来ている為、今後も続けていきたい。	周辺地域からの利用者が多く、面会も多い。地区の祭り見学など外に出る機会を多くしている。四季折々の懐かしい風景や知り合いに出会うことなどで関係をつないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、話をしたり行動をする事で、徐々に親しくなれ利用者同士で話されたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた後、どう生活されているか面会に行き、その職員の方から様子を聞いたり、必要に応じて、本人・家族からの相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や本人・家族から意見等の聞き取りを行っている。日常生活・会話・行動から本人本位で検討しているが、情報不足な面は多い。	日常の関わりの中で思いを把握している。思いを伝えられない場合は、職員で検討をして食事、外出などその人に合わせて対応できるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を元に、家族からの情報収集を行い把握することに努めている。一人ひとりの日常会話から新たな情報が収集出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報は聞いている。入居されてからも、家族の方へアンケートを行い聞き出す努力はしているが、本人からの意見は一部聞けていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は出来ていても、「どうあってほしいか、どうありたいか」の話し合いが、本人・家族からの意見が聞けていない。	担当者が日々の関わりから利用者の思いや意向を聞きだし、家族の面会時に要望を聞きながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個人の記録に記入しているが、特に落ち着いておられる利用者の記録が細かく記入されていないので、介護計画の見直しに活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、その都度柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源全ては把握出来ていないが、利用者が必要とする地域資源は把握し、活用出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの継続又は本人・家族の希望を聞き受診時の対応、必要に応じて情報提供し、主治医と連絡を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となつている。受診には職員も同行し、必要時には家族の協力を得て医療機関との連携を取りながら支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護職員が協力病院や主治医と連絡を取りながら中心となり行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、おおまかな生活状況や利用サービス等を文書で情報提供している。またなるべく入院先に出向き情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の終末期に向け、家族とは細かい話し合いを行なった。主治医からの病状説明には家族と共に担当職員同席し、方針を共有している。	看取りの事例はまだない。家族の希望に沿いたいとの思いがあり話し合いはしている。職員は今後勉強会をしながら看取りに向けての統一した理解を進めていく予定になっている。	今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て全職員が、救急法の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と合同で避難訓練、夜勤体制での訓練を実施している。地域の消防団への協力をお願いしているが、一緒に訓練は行っていない。	消防署の指導の下で細部にわたり、通報、避難、消火訓練をしてきた。特に避難経路の選択の判断や夜間体制での訓練も実施している。	地域の協力が得られる体制作りと備蓄についても検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けを、心がけているが不適切な言動になることもあり、職員会や昼礼、その都度個人の尊重について、問題提起している。	上からの目線にならないよう対応し、言葉の使い方に注意しながら、方言を使うことも心がけている。日頃から職員間でもお互いに注意しあえる関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人から希望を表わせるよう声かけを行ったり、利用者一人ひとりに合った説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。散歩やドライブなど希望に沿った支援を心がけているが、その日の状況によって出来ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪へ行っている。洗顔等、自分では難しい方には温タオルを使って対応している。服装等、職員が選びがちなため、その日の気分に合わせて、利用者を選択してもらおうよう努めたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で一括して作っている。食事が楽しみなものとなるように食べたいものを聞きメニューに取り入れている。下ごしらえやおやつ作り、後片付けなど利用者と職員が一緒にしている。	日々の関わりの中で嗜好や希望を把握し、メニューに取り入れている。皆で一緒に作るおやつ作りは利用者にとっては楽しみであり、家族からも好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた献立を利用者の体調等気をつけて摂取して頂いている。水分補給は寒天やゼリーなど作り摂取しやすいように工夫しているが、記録への記入漏れ等多くみられる為改善していきたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを実施しているが、確認が不十分である。義歯を使用されている方については、義歯の洗浄・洗浄剤での消毒(週1回)やうがいをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声掛け、トイレ誘導している。パットやパンツを本人の状況に合わせて使い分けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけ、誘導しトイレでの排泄を支援している。身体機能に合わせて手すりの取り付けをすぐ対応するなど、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用している。出来るだけ自然排便があるよう、水分補給・おやつ・寒天ゼリーなど工夫している。やむを得ず、浣腸・通便・下剤を使用する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の温泉の湯を使用している。入浴は希望があれば毎日でも入浴出来るが、職員の都合で入って頂く時もある。	温泉を利用しているので毎日入浴可能である。入浴時間帯については、職員の状況で希望どおりにはならない時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活に合わせて休みたい時は、居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の一覧表を頂きファイルし、内服の副作用等症状の変化に気を付けている。緩下剤服用者あり、使用量など医者に相談し排便コントロールを図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や興味がある事を生活歴や本人との話の中で見つけ(将棋・庭の手入れ・カラオケ等)日常生活に取り入れて楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって買い物に出かけた後、散歩やドライブ、町内のイベントに出掛けている。	寝たきり、重度化を予防する為にも外出は大切にしている。天候に合わせ、季節を感じてもらいながら、途切れないように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫にて預かり保管しているが、買い物に出掛ける際には、職員が付き添った上で本人に手渡し買い物等をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時スタッフルームにある電話を使用し、話をして頂いている。家族や知人から電話がある際にも本人と話をして頂いている。手紙については職員が声掛けし、家族や大切な人へ手紙を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって過ごしやすく、使いやすい共用空間作り(テーブルの配置変え・手すりの設置等)を心懸けている。	季節感のある飾りや行事の写真や作品が飾られている。玄関、フローア、居室への明るくてゆとりがあり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下にソファを設置しており、利用者同士の会話もよくみられ、日中はほとんどの方が居室以外の場所で過ごしている。活用できていないスペースもあるので、のんびり過ごして頂ける空間作りをしていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や茶道具・布団等、家出使用していた物品を持ち込んで使用されている方が多く、利用者の状態に合わせた居室作りをしている。	使い慣れた家具や持ち物が置かれている。一人ひとりの状態に合わせて畳、ベッド選択、手すりも付け替えるなど柔軟に対応して居心地のいい居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方には居室にも手すりを設置し、安全に生活できるよう環境作りに取り組んでいる。		